



企業は みんなのために

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

NMCAA
NO3

企業の社会貢献CSR活動が盛んになってきているそうです。最近のニュースから一つご紹介

します。愛媛県松山市にある地方銀行・愛媛銀行が重点活動に位置付けているのが「環境保護活動」で、行員をはじめ地域住民から使用済みの油を回収し、バイオディーゼル燃料としてバスやトラックなどのディーゼル車両に再利用するという環境活動を行っています。成果は約62トンのゴミ減量、約157トンのCO2削減の効果が出ているそうです。

また、県と「愛媛県動物愛護推進連携協定」を締結し各支店に愛媛県動物愛護センターのパンフレットを設置し、地域住民への動物愛護における啓発活動の機会と場所を広く展開したり、同センターの認知度向上のためパネル展などを開催して動物の終生飼育などの啓発を行いました。東日本大震災において、被災動物の問題点などについても検証活動を行

い、災害発生時にどのような被災動物と関わっていくべきかを新しいタスクとして定義し、県などと連携して継続した話し合いを行っています。(nezasより)

CSRについてRBTODAYに評論がありました。実は日本ではCSRという言葉ができるずっと以前から経営の中に組み込まれていたんです。世の中に対して貢献をすること「倫理的に間違ったことをやらない」といった「道徳心」とでも言うべき心得は、日本では江戸時代の頃からずっと根付いていたのじゃないかと思えます。例えば「三方よし」では、売り手よし「買い手よし」世間よし「三つのよし」を説いています。売り手と買い手の満足だけでなく、社会貢献もできるのがよい商売であるということですね。こういった格言は様々な企業で現代にも受け継がれています。また、東日本大震災がひとつの契機となったのではないのでしょうか。当初は復興という観点からボランティアや募金などの活動をされていた企業が、復興の過程においてさらにその先を見据えたときに地方創生という視点が生まれたのだと思います。

環境大臣表彰に神奈川県が選ばれました。美化活動が始まったのは45年前。行政からの依頼ではなく、百分たちの暮らす街をきれいにしたいという思いから。活動は自治会内を6つのグループに分け、月に1度のペースで歩道橋や公園などの清掃や除草作業を実施。7割を超える高い参加率を保っている。さらに美化意識の次世代への継承を目的に、夏休みには子どもたちとともに作業を行うなど、普及啓発活動に積極的に取り組んでいる。(産経ニュースより)

地域もみんなのため

編集後記

企業も自治もみんなのためをやれば、心あたったかで、いい世の中です。